

イカナゴ情報 No.2 (2022年6月)



令和4年6月20日

道総研

道総研稚内水産試験場調査研究部 (担当: 佐藤・堀本) Tel. 0162-32-7166

宗谷海峡周辺において主に沖合底びき網により6~9月に漁獲されるイカナゴ類¹の漁獲物調査と漁場環境調査の結果についてお知らせします。

漁獲物調査: 2022年6月前半は体長21~23cmが主体

6月前半の漁獲物標本を測定したところ、2022年は体長21~23cmの個体が主体となりました(図1)。近年は主に2015年と2018年に小型個体(20cm以下)として漁獲されたものが、成長しながら各年で漁獲されており、2022年の大型個体は2018年の小型個体が成長したものが主体だと考えられます。また今年、5月のトロール調査(参考:イカナゴ情報No.1)や6月前半の漁獲物に、少数ながら小型個体(20cm以下)が確認されており、今後漁獲の主体になることが期待されます。

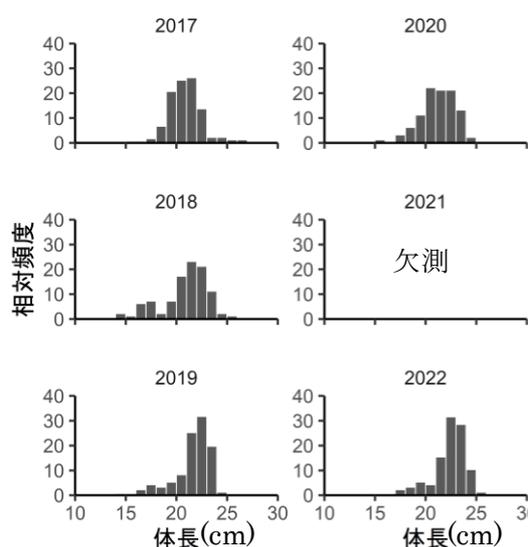


図1. 稚内で水揚げされたイカナゴ類の6月前半の体長組成.

海洋観測: 沿岸からオッター漁場・かけまわし漁場にかけて昨年より低めの水温

宗谷海峡東方海域において6月13~16日に試験調査船北洋丸によるイカナゴ類漁場の環境調査を実施しました(図2)。観測ラインの水温断面図をみると、ラインAではO15からIS01(水深30~40m)の海域での水温は8℃前後で、2020・2021年に比べて4℃前後低くなっています。また、オッタートロールの主漁場となるIS02からIS04(水深50~80m)の海域でも、底層水温はおおむね3~5℃と2020・2021年に比べて1~2℃ほど低くなっています。ラインBでの沿岸域の水温も9℃前後、かけまわしの主漁場にあたるIS11からIS09(水深40~60m)の海域は5~9℃となっており、全体を通して2020・2021年に比べて低水温な傾向となっています。

¹ イカナゴ類にはイカナゴ, オオイカナゴ, キタイカナゴの3種が含まれる (Orr et al., 2015)

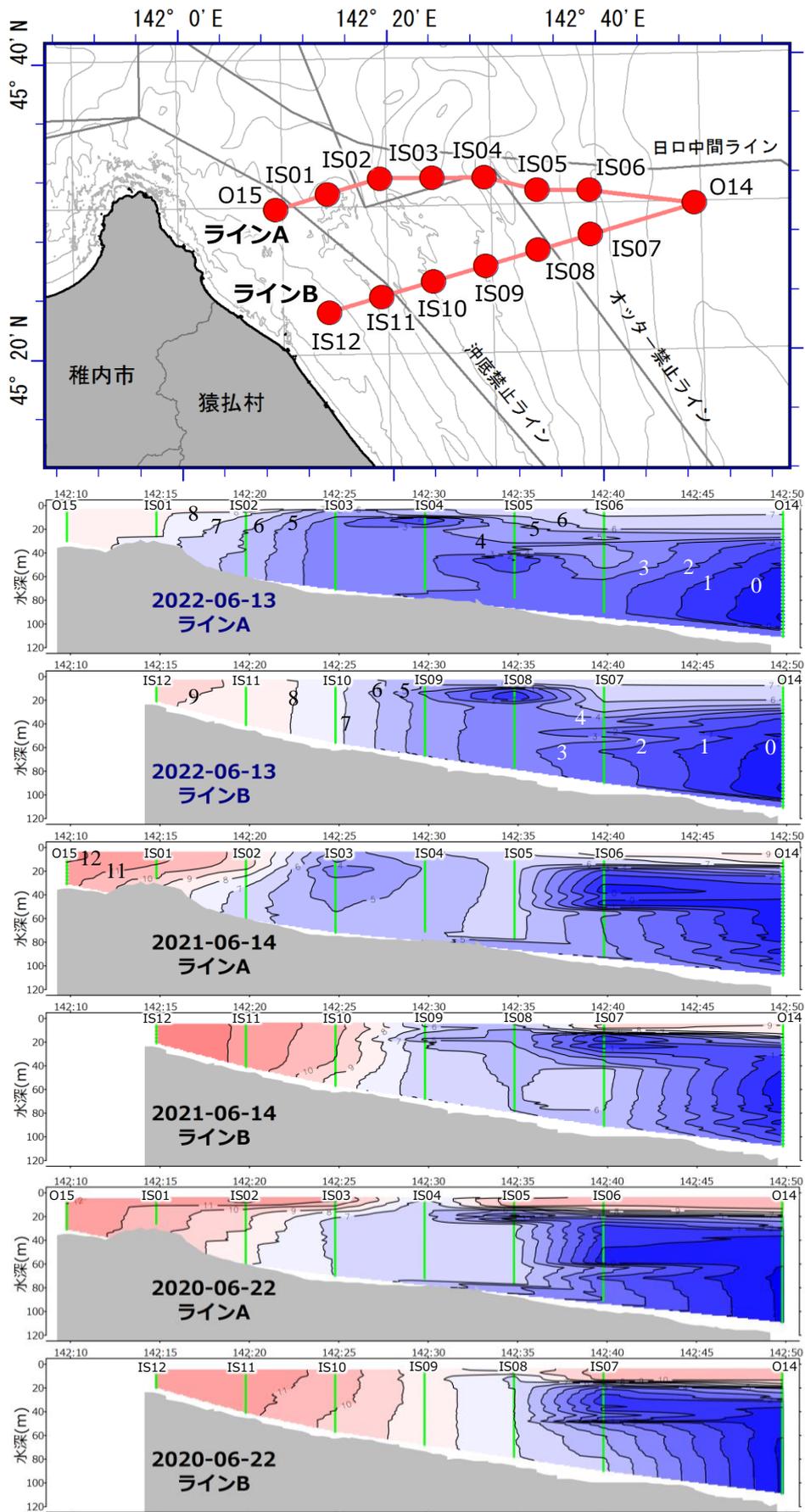


図2. 海洋観測・魚探観測ラインの位置と最近3年の水温断面図.

魚探観測：水深 50 m 付近でイカナゴ類とみられる反応を複数確認(図 3)

海洋観測と同じラインで魚探観測を実施しました。ライン A ではイカナゴ類とみられる反応は確認できませんでした。ライン B においては水深 50m 付近で海底から深度 25m 付近まで伸びる、イカナゴ類とみられる魚群を複数確認しました。

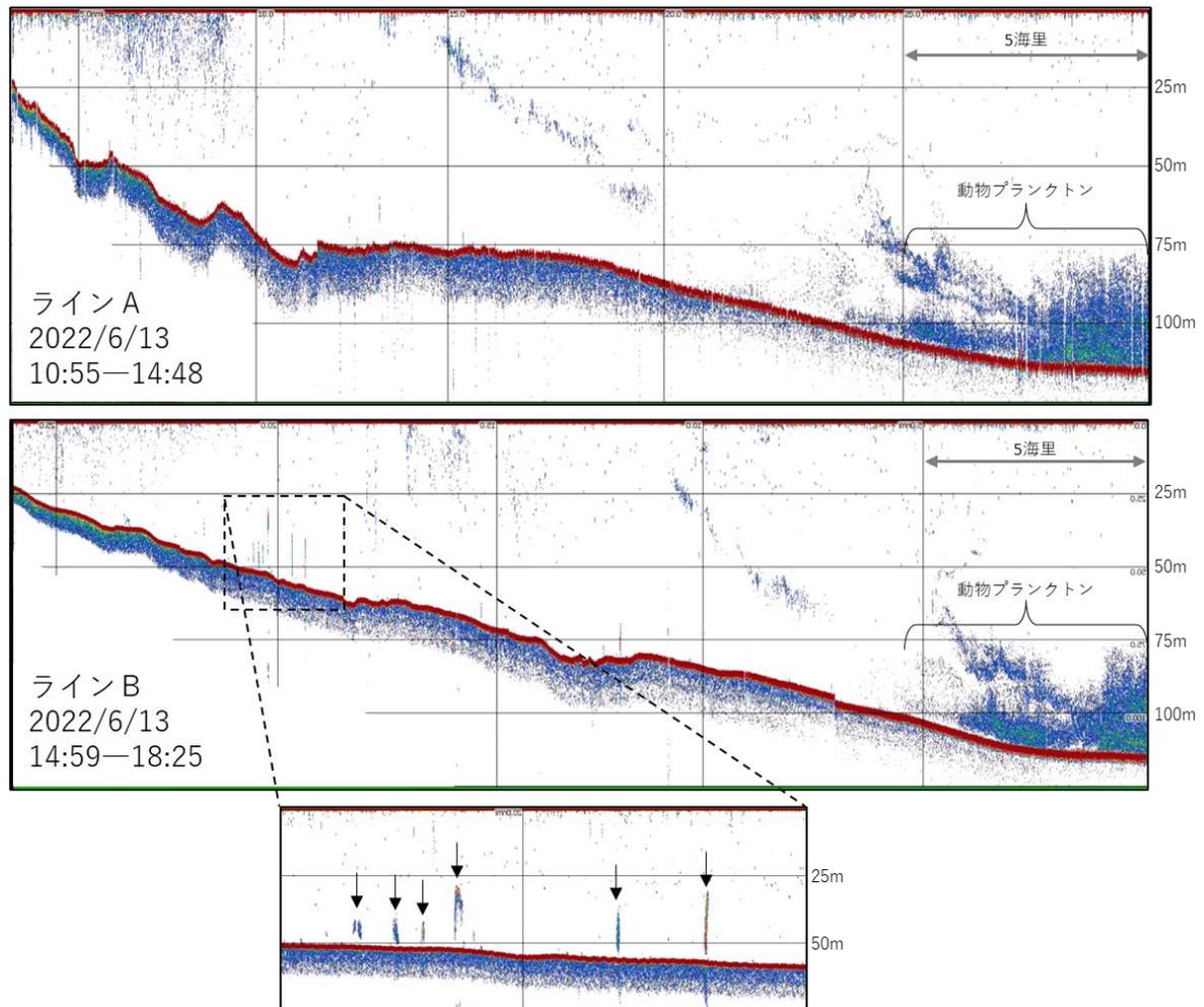


図 3. 観測ライン A~B における魚探反応. ライン B における点線枠内の拡大図を各ライン図の下部に示した. 拡大図中のイカナゴ類とみられる魚群反応を黒矢印で示した。